

日本クリエイション賞

HondaJet、世界の空へ飛び立つ

ホンダ エアクラフト カンパニー 社長兼CEO 藤野道格氏

「マン・マキシмум、メカ・ミニмум」を体現したクラス最大級のキャビン



あらゆる点でこれまでの航空機の常識を覆す
ホンダの最先端ジェット機「HondaJet」



約30年にわたり
事業化を指揮してきた藤野道格氏

「お 客様に最高のパーソナルモビリティをお届けする」。二輪車から始まり、自動車などの開発に挑んできた、本田技研工業株式会社創業者の本田宗一郎氏の創業当初からの空への夢が、ついに実現した。

2015年4月、ホンダの最先端ジェット機「HondaJet（ホンダジェット）」が初めて日本の空を飛び、同年12月8日には米国連邦航空局（FAA）の型式証明を取得。

12月23日には、記念すべき1号機を米国のお客様に納入した。既に100機を大幅に超えるオーダーを頂いており、今後順次、北米、欧州およびブラジルのお客様のもとに届けられる。

HondaJetは、最大7人乗りの小型ビジネスジェット機。

プロジェクトリーダーの藤野道格氏（現ホンダエアクラフト社 社長兼CEO）が中心となって、約30年にわたり航空機開発及び事業化を指揮してきた。

ホンダが主翼上面エンジン配置形態、自然層流翼、複合材製胴体など数々の先進技術を独自開発し、単独でFAA（米国連邦航空局）の型式証明を取得したことは航空業界における世界的快挙と言われている。

HondaJetは、クラス最高の速度、高度、燃費を達成し、またクラス最大のキャビンを実現した。あらゆる点でこれまでの航空機の常識を覆す、ホンダらしいチャレンジがなされている。

ホンダの哲学でもある「マン・マキシмум、メカ・ミニмум」を体現しており、世界中の航空

ショーでお客様がHondaJetを目当てに長蛇の列を作る。

1970年代、自動車メーカーとして後発だったホンダが、当時世界で最も厳しいと言われた米国の排ガス規制を真っ先にクリアし、大型車が主流だったアメリカの自動車文化を変えてきたように、今、HondaJetが世界のビジネス航空業界を変えようとしている。